

世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

舞岡高等学校 中山拓憲

2017年度も、県内の高等学校を会場としてお借りし、2か月に1回のペースで委員会を開催しました。関係各位の皆さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。世界史推進委員会では、近年、教科書の記述が急激に更新されて行っていることを受けて、「何を学ぶのか」ということに重点を置いた教材研究、授業研究に取り組んできました。生徒が「主体的・対話的で深い学び」を行うためにも、教科書記述の背景となる研究動向を押さえることは大切なことだと考えております。それを踏まえて、2017年度は以下①②の活動をしました。

① ヨーロッパ史の最新研究を踏まえた教材開発

2ヶ月に1回の委員会では、テストやプリントなどの教材交換、情報交換等を行っております。それに加えて17年度は、16年度に続き『新しい西洋史—アジアから考える』（ミネルヴァ書房）を題材に読書会を行いました。従来のヨーロッパ中心史観を脱却し、アジア史を踏まえたヨーロッパ史の最新の研究成果が1冊で捉えられる本です。年に一度の高大連携講座では、長年アジア史に取り組んできたのですが、昨年度は近世のヨーロッパをテーマに行いました。そこで大学教員とともに、我々高校教員も最新の研究を踏まえた授業を行いました。大変好評でしたので、今年度もヨーロッパ史をテーマに、その教材化に取り組んでまいります。

② 学習指導要領の改訂を見すえた動き

新学習指導要領が公開されましたが、当委員会では、以前よりその趣旨を先取りする活動を行ってきました。昨年度はより活発に行うことができましたと思います。新科目「歴史総合」を見すえて、日本史と世界史の垣根を取り払おうとする活動が多く見られました。詳しい内容は別ページを参考にしてほしいのですが、神田基成の秋季大会における日本統治期台湾に関する発表、中山拓憲の日本史サマナーセミナーにおける戦時下日本における在日朝鮮人に関する発表に加え、歴史分科会研究発表会における岡本弘道先生の琉球史の講演もありました。さらに、日本史研究推進委員会と合同の委員会を昨年6月に行いましたが、そこではハワイにおける日系移民に関する発表もありました。この様に、アジアと日本という、「歴史総合」でも扱えそうなテーマの発表や講演が続いた一年でした。

高大連携の取り組みも10年前からやっておりますが、引き続き今年度も行いました。夏の高大連携講座以外にも、大学と高校の教員で構成される高大連携歴史教育研究会が取り組む用語精選(世界史)に、当委員会からも何名かの教員が参加しました。少なからず、貢献できたと思います。

③ 来年度に向けて

来年度は、上記の活動のほかに大きなイベントとして、中国長春で行われる第4回アジア世界史学会(AAWH)があります。上記の神田・中山の発表、5月に予定される智野豊彦の発表をもとに、パネル参加することになりました。パネルタイトルは、“Teaching the Exchange between Asian Regions and Japan in the Age of Imperialism : Practice in High School in Japan.”です。

最後になりますが、今年度の委員長としての目標は、委員会参加者の増加、そして定着です。そのために、参加して良かったと思える委員会を目指していきます。若手、ベテラン問わず、気軽にご参加ください。興味のある方は、中山か、神田(鎌倉学園)までお声がけください。